



アクサ生命保険株式会社

## 新変額個人年金保険『リズナブル』

### 平成29年度 特別勘定決算のお知らせ

#### 1. 運用環境 (平成29年4月～平成30年3月)

##### 【日本株式市場】

日本株式市場は上昇しました。年度末の東証株価指数 (TOPIX) は前年度末比+13.47% の1,716.30ポイント (前年度末1,512.60ポイント) となりました。年度の前半は、一時1,500ポイントを下回った後、シリアや北朝鮮の地政学リスクへの懸念後退や、欧米株式市場が上昇したことなどを背景に上昇しました。年度の後半は、安定した国内の政権運営や米国の税制改革法案に対する期待感などを要因に上昇し、1月には一時1,900ポイントを上回りました。その後、米金利の上昇などを背景とした米国株式市場の下落や、円高米ドル安などを要因に日本株式市場は下落基調で推移しましたが、年度を通じては上昇となりました。

##### 【日本債券市場】

日本債券市場は、10年国債の金利が低下 (価格は上昇) し、年度末には0.045% (前年度末0.065%) となりました。年度の前半は、上記の地政学リスクへの懸念後退などを受けて0.105% まで金利は上昇 (価格は下落) しました。その後、株安、米金利の低下が進んだことなどから、一時-0.015% まで低下する場面がありましたが、米金利の上昇に連れて、金利は上昇しました。年度の後半は、10年国債の需給の引き締まりが意識されたことなどから金利は低下しましたが、その後、欧米債券の金利上昇や、12月初めの入札が不調となったことなどを背景に、金利は上昇しました。2月に日銀の国債買い入れオペレーションにおいて国債の買い入れ額が増額されたことを受けると、金利は低下基調で推移しました。

##### 【外国株式市場】

米国株式市場は上昇しました。年度末の NY ダウ工業株30種は前年度末比+16.65% の24,103.11ドル (前年度末20,663.22ドル) となりました。年度の前半は、上記の地政学リスクへの懸念後退、堅調な経済指標などを背景に上昇しました。年度の後半は、税制改革法案に対する期待感などを要因に上昇基調で推移し、1月下旬には26,616.71ドルを付けました。その後、米金利の上昇が嫌気されたことや、米国の対中貿易制裁に伴う米中貿易戦争への警戒感などから下落基調となりましたが、年度を通じては上昇となりました。欧州株式市場は市場によってまちまちの展開となりました。市場別の年間の騰落率は、独 DAX 指数-1.76%、英 FTSE100指数-3.64%、仏 CAC40指数+0.87% となりました。

##### 【外国債券市場】

米国債券市場は、10年国債の金利が上昇 (価格は下落) し、年度末には2.739% (前年度末2.387%) となりました。年度の前半は、上記の地政学リスク、欧州の政治リスクに対する見直しなどを要因に揉み合いで推移しました。年度の後半は、レンジ圏で推移した後、12月下旬に米国の税制改革法案が成立したことなどをを受けて金利は上昇しました。平成30年に入った後も中国当局者らが米国債の購入を減額ないし停止すると警告したと報じられたことや米経済の堅調さなどを背景に金利は2.954% まで上昇しましたが、年度末にかけては、米中貿易戦争への懸念などを背景に金利は低下 (価格は上昇) しました。年度を通じては金利は上昇しました。年度中に、FRB (米連邦準備制度理事会) による、FF (フェデラル・ファンド) 金利の誘導目標引き上げが3回行われ、計0.750% 引き上げ、年1.500～1.750% となりました。欧州債券市場は、独10年国債の金利が上昇し、年度末には0.497% (前年度末0.328%) となりました。年度の前半は、上記の地政学リスク、欧州の政治リスクに対する見直しなどを要因に揉み合いで推移しました。年度の後半には、米金利の上昇や、ECB (欧州中央銀行) の金融緩和縮小に対する前向きな姿勢などを受けて金利は上昇傾向で推移し、0.8% 超となる場面もありました。年度末にかけては2月に発表された独景況感指数やユーロ圏消費者物価指数速報値の軟調な結果や、ECB 関係者が景気や物価に対して慎重な見解を示したことなどを背景に、金利は低下基調で推移しました。年度を通じては金利は上昇しました。

##### 【外国為替市場】

米ドル / 円相場は、円高米ドル安となり、年度末には106.24円 (前年度末112.19円) となりました。年度の前半は、上記の地政学リスク、欧州の政治リスクに対する見直しなどを要因に揉み合いで推移しました。年度の後半は、米国の税制改革法案への期待感などから円安米ドル高傾向で推移しましたが、1月に日銀が国債買い入れオペレーションを減額したことを受けて円高米ドル安基調に転じ、3月下旬には104.93円を付けました。ユーロ / 円相場は、円安ユーロ高となり、年度末には130.52円 (前年度末119.79円) となりました。年度の前半は、上記の地政学リスク、欧州の政治リスクへの懸念後退などの影響で、円安ユーロ高で推移しました。年度の後半は、ECB の金融緩和の縮小に対する前向きな姿勢などを要因に円安ユーロ高で推移しましたが、年度末にかけては、2月に米金利上昇などを要因に世界的に株安となったことなどを背景に、リスク回避のため安全資産とされる円が買われ、円高ユーロ安基調で推移しました。年度を通じては円安ユーロ高となりました。

#### 2. 特別勘定資産の内訳 (平成29年度末)

(単位：百万円、%)

区 分	日本株インデックス型 (TG)		日本株アクティブ型 (TG)		世界株式型 (TG)		新興成長国株式型 (TG)	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
現預金・その他	11	6.6	7	5.1	4	4.7	6	4.9
株式	-	-	-	-	-	-	-	-
公 社 債	-	-	-	-	-	-	-	-
外 国 株 式	-	-	-	-	-	-	-	-
外 国 公 社 債	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の証券	168	93.4	144	94.9	91	95.3	120	95.1
貸 付 金	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計	180	100.0	151	100.0	96	100.0	126	100.0

区 分	中国株式型 (TG)		世界債券型 (TG)		海外リート型 (TG)		マネープール型 (TG) <sup>(注1)</sup>	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
現預金・その他	6	11.5	2	3.4	1	4.9	8	17.5
株式	-	-	-	-	-	-	-	-
公 社 債	-	-	-	-	-	-	-	-
外 国 株 式	-	-	-	-	-	-	-	-
外 国 公 社 債	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の証券	48	88.5	83	96.6	30	95.1	40	82.5
貸 付 金	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計	54	100.0	86	100.0	32	100.0	48	100.0

(注) 金額は百万円未満を切り捨て。構成比は小数点第2位を四捨五入。

#### 《海外リート型 (TG)》

運用実績 (平成30年3月末日現在)	過去1年		過去3年		過去5年		設定来	
	騰落率 (%)	△6.24	△12.53	31.82	15.19			
(注) 騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成18年9月1日。								
運用方針	日本を除く世界各国の上場不動産投信 (REIT= Real Estate Investment Trust) を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、S&P 先進国 REIT 指数 (除く日本、配当込み、円換算ベース) に連動した投資成果をあげることを目指します。							
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「ノムラ海外 REIT インデックス・ファンド VA (適格機関投資家専用)」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。上記運用方針を継続し、「ノムラ海外 REIT インデックス・ファンド VA (適格機関投資家専用)」への高位の投資比率を維持します。							

#### 《マネープール型 (TG)》<sup>(注1)</sup>

運用実績 (平成30年3月末日現在)	過去1年		過去3年		過去5年		設定来	
	騰落率 (%)	△0.85	△2.45	△3.85	△8.92			
(注) 騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成16年10月1日。								
運用方針	他の特別勘定で運用している資金の一時退避を目的とし、国内の公社債および短期金融商品等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、安定した投資成果をあげることを目指します。							
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「フィデリティ・マネー・プール VA (適格機関投資家専用)」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。上記運用方針を継続し、「フィデリティ・マネー・プール VA (適格機関投資家専用)」への高位の投資比率を維持します。							

(注1) 「マネープール型 (TG)」は株価、債券価格、為替等の変動の影響を受ける可能性が低いことを想定した特別勘定です。ただし、低金利環境下(マイナス金利を含む)では、「マネープール型 (TG)」の積立金の増加が期待できないだけでなく、諸費用の控除等により積立金が減少することもありますのでご注意ください。

(注2) シティグループの債券分析、並びにインデックス事業が、ロンドン証券取引所グループへ売却されたことに伴い、シティグループが提供しておりましたインデックス名称における「シティ」が「FTSE」へ変更されることとなりました。なお、各インデックスの連続性は維持されます。

お問合せ窓口：カスタマーサービスセンター 0120-933-399

受付時間 月～金 9:00～19:00

土 9:00～17:00 (日・祝日、12/31～1/3を除く)

### 3. 特別勘定の運用収支状況（平成29年度末）

（単位：百万円）

区 分	日本株インデックス型 (TG)	日本株アクティブ型 (TG)	世界株式型(TG)	新興成長国株式型 (TG)
	金 額	金 額	金 額	金 額
利息配当金等収入	2	-	-	7
有価証券売却益	19	27	2	8
有価証券償還益	-	-	-	-
有価証券評価益	14	26	1	11
為 替 差 益	-	-	-	-
そ の 他 の 収 益	-	-	-	-
有価証券売却損	0	-	0	-
有価証券償還損	-	-	-	-
有価証券評価損	-	-	-	-
為 替 差 損	-	-	-	-
そ の 他 の 費 用	-	-	-	-
収 支 差 額	36	54	4	28

区 分	中国株式型(TG)	世界債券型(TG)	海外リート型(TG)	マネープール型(TG) <sup>(注1)</sup>
	金 額	金 額	金 額	金 額
利息配当金等収入	-	-	0	-
有価証券売却益	16	5	1	-
有価証券償還益	-	-	-	-
有価証券評価益	8	1	-	-
為 替 差 益	-	-	-	-
そ の 他 の 収 益	-	-	-	-
有価証券売却損	0	0	0	0
有価証券償還損	-	-	-	-
有価証券評価損	-	-	1	0
為 替 差 損	-	-	-	-
そ の 他 の 費 用	-	-	-	-
収 支 差 額	24	6	△ 1	△ 0

（注）金額は百万円未満を切り捨て。

### 4. 保有契約高（平成29年度末 /8勘定合計）

（単位：件、百万円）

項 目	件 数	金 額
新変額個人年金保険	148	785
合 計	148	785

（注）金額は百万円未満を切り捨て。

### 5. 特別勘定の運用状況

#### ◀日本株インデックス型 (TG) ▶

運用実績 (平成30年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	13.12	12.17	70.43
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成16年10月1日。				
運用方針	国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、日経平均株価に連動した投資成果をあげることを目指します。			
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「インデックスファンド225」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。上記運用方針を継続し、「インデックスファンド225」への高位の投資比率を維持します。			

#### ◀日本株アクティブ型 (TG) ▶

運用実績 (平成30年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	22.76	26.51	85.55
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成16年10月1日。				
運用方針	国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。			
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「フィデリティ・日本成長株・ファンド VA3(適格機関投資家専用)」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。上記運用方針を継続し、「フィデリティ・日本成長株・ファンド VA3(適格機関投資家専用)」への高位の投資比率を維持します。			

#### ◀世界株式型 (TG) ▶

運用実績 (平成30年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	0.86	△1.48	41.54
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成18年9月1日。				
運用方針	日本を含む世界各国の高い配当利回りが期待できる企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。			
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「アムンディ・世界好配当株式VA (適格機関投資家専用)」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。上記運用方針を継続し、「アムンディ・世界好配当株式VA (適格機関投資家専用)」への高位の投資比率を維持します。			

#### ◀新興成長国株式型 (TG) ▶

運用実績 (平成30年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	17.02	18.76	40.04
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成18年9月1日。				
運用方針	新興成長国企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。			
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「GIM・BRICS5・ファンド (適格機関投資家転売制限付)」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。上記運用方針を継続し、「GIM・BRICS5・ファンド (適格機関投資家転売制限付)」への高位の投資比率を維持します。			

#### ◀中国株式型 (TG) ▶

運用実績 (平成30年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	25.50	12.75	74.73
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成16年10月1日。				
運用方針	中国の証券取引所に上場されている企業の株式や中国経済の発展と成長に係わる企業の株式等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。			
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「HSBC チャイナ ファンド VA (適格機関投資家専用)」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。上記運用方針を継続し、「HSBC チャイナ ファンド VA (適格機関投資家専用)」への高位の投資比率を維持します。			

#### ◀世界債券型 (TG) ▶

運用実績 (平成30年3月末日現在)	過去1年	過去3年	過去5年	設定来
	騰落率 (%)	0.03	△9.78	6.95
（注）騰落率は小数点第3位を四捨五入。運用開始日は平成16年10月1日。				
運用方針	日本を含む世界各国の公社債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、FTSE 世界国債インデックス（含む日本 / 円ベース） <sup>(注2)</sup> を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。			
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「グローバル・ソブリン・オープン VA (適格機関投資家専用)」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。上記運用方針を継続し、「グローバル・ソブリン・オープン VA (適格機関投資家専用)」への高位の投資比率を維持します。			